

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第24号

発行：平成24年3月 OSS・EPRグループ(指定管理者)



環境フォーラム・イベント報告

●森林フォーラム～森と人との関わり～(平成23年度10月15、16日)

森や木に関わる活動をしている個人・団体を招き、「森や生きものと共存するために、私たちに何ができるのか」を考えるフォーラムを開催しました。15日は森の楽器作りなどのワークショップや体験会、音楽会などを実施し、16日は「日本の森林と生物多様性の視点から考える里山の保全」に関する基調講演や、森林を活用した取組の事例紹介などを行いました。期間中、多くの方にご参加いただき、森や生きものと向き合うきっかけになりました。



▲基調講演



▲クリやドングリなどを使った「花炭作り体験」

●ふれあいの森収穫祭(平成23年12月24日)

青く澄みきった空の下、NPO法人いっちゃんクラブとの協働で収穫祭を行い、参加者は餅つきや森の散策のほか、ススキ再生区でカヤネズミの棲みかとなるススキの移植を体験しました。小さな子どもたちもボランティアの方々と一緒に餅をついたり、ススキに土をかけて植え付けをしました。最後はふれあいの森で収穫された野菜たっぷりの芋煮汁がふるまわれ、心も体もすっかりあたたまりました。



▲森の散策の様子



▲ススキの移植の様子



ポイントガイド

新散策路

「カスミザクラのみち」

「カスミザクラのみち」が平成24年1月4日に開通しました。森の館からゆっくり一周すると約1時間の道のりです。

見どころは園内で一番大きな池「奥池」です。春にはカスミザクラが咲き、木々の彩りを映す湖面には淡いピンク色の花びらが浮かび、冬にはオシドリを始めとするカモ類が羽を休めに訪れます。また、落葉樹と常緑樹が混ざる散策路の途中では、木々の間から金剛山や岩湧山を望むことが出来ます。

春から初夏にかけて桜やモチツツジ、リョウブなどの花が咲き、小鳥や昆虫で森が賑やかになります。是非散策にお越し下さい。



かがみ池保全活動

開園当初、農耕用のため池として使われなくなり、数十年も放置されていた「かがみ池」には多くの木の枝や落ち葉などが堆積し、富栄養化が進んでいました。また、ウシガエルやアメリカザリガニといった捕食圧の高い外来生物が優先して生息する池になっていました。

そこで、平成19年より、池を覆っている木の伐採や、冬期に池の水を減らして池底を天日干しする取り組みなどを続けています。その結果、徐々に環境が改善し、平成21年12月



▲生物調査の様子

には上神谷小学校の児童が育てたカワバタモロコの放流を行うことが出来ました。

平成23年11月の調査では、繁殖したカワバタモロコの群れが確認されたほか、ヤブヤンマなどのトンボのヤゴやゲンゴロウの仲間などが確認されました。一方、以前は多数いたウシガエルのオタマジャクシは確認されず、アメリカザリガニの数も減少していました。

今後も、落ち葉などの堆積物を取り除くなど環境保全の取り組みを続け、在来生物が生息しやすい環境づくりを継続していきます。



▲カワバタモロコ
(堺市レッドリストAランク)

里山が教室 自然が先生

多くの方に、森での学びを・・・！

普段、自然と接することが少なく、何をしたらいいのかわからない、という方から、もっと自然を知りたい、環境について学びたい、という方まで、ご要望に合わせたプログラムを提供しています。プログラムメニュー(※)の中から選んでいただくだけでなく、対象年齢や人数構成、興味・関心に応じてスタッフと相談した上で、実施するオーダーメイドプログラムもあります。より多くの方に、自然と触れ合う環境学習の機会を提供できるように取り組んでいます。



▲プログラムを利用される団体担当者や森の館に常駐するレンジャーが事前に対象者や学習の目的などを相談し、要望を聞き取りながらメニューを決めています。

※プログラムメニューとは、団体の方を対象に、時間や料金をあらかじめ設定したものです。工作・自然観察・ワークショップなどの活動をご用意しています。

人気のプログラムメニュー



森のクイズラリー どんぐりカモさん作り

事例1 小学校

春と秋の遠足シーズンを中心に校外学習や総合学習での利用が増えてきており、多くの学校が、自然観察と工作の2つのプログラムをセットで利用されています。

また、雨天時にはプログラムを変更するなど、当日の天候や滞在時間に合わせて柔軟な対応をしています。

この他、学習の目的に合わせたプログラムや事前事後学習についても、ご相談いただけます。



事例2 福祉施設

主に平日に森の散策や森の館での休憩でご利用いただいています。

年配の方や車椅子利用の方が多いため、館とつながっている段差のない森の回廊(木道)での散策を楽しまれたり、園内の自然を展示している館内でゆっくりと過ごされています。



車椅子利用の方でも気軽に森を散策できるバリアフリーの木道。▶

事例3 幼稚園・保育所

幼少期における自然とののかかわりの重要性が改めて見直されており、生きものや草花などのふれあいを求め、利用が増加しています。幼児にも分かりやすいように、遊びを取り入れるなど楽しみながら学ぶことができるプログラムや工作などを提供しています。また、自然の移り変わりを体感できるように、季節を変えて、年に数回利用されることをお勧めしています。



事例4 生涯学習

動植物に対する造詣が深く、興味・関心をはっきりとしていることが多いため、それぞれ団体の目的に応じたオーダーメイドプログラムを提案しています。参加者同士が交流しながら学ぶワークショップ形式のプログラムが好評です。

▼環境についてゲーム形式で理解できるワークショップ。大人の方も新鮮な学びを味わうことができます。

▼自然物を使って、自然の持つ美しさに気付くワークショップの様子。



堺自然ふれあいの森では、イベントに参加される個人の利用以外にも団体の利用受け入れを行っています。

小学校の校外学習をはじめ、福祉施設など、団体利用の形態が年々多様化しており、各団体の年齢構成や人数、目的に応じて、森の自然に親しんでいただけるプログラムを提供しています。

平成23年度 森の整備計画報告

NPO法人いっちゃんクラブ・大阪府立大学・堺市・指定管理者の4者で、これまでに設定された整備エリアの現地状況を確認し、協議をしました。整備区の一部は、設定当初と比べて遷移が進み、過去に策定した計画に対応しなくなっている区域もあったため、適切な整備ができるようエリアの範囲や整備内容の見直しを行いました。

今回の計画で活用ゾーン内のほぼ全域を整備区として設定し、方針を決めることが出来ました。



① 雑木林6の新設

これまで保護ゾーンとして、一部を除き手を入れてこなかった奥池周辺エリアを「雑木林6」に設定し、活用ゾーンとして整備を進めることになりました。現状はコナラやサクラなどの落葉樹主体の雑木林ですが、枯れ木処理や林床の下草刈り、常緑樹の択伐を林の状況を見ながら時間をかけて行っていく予定です。特に、エリア内にある奥池に留意し、池を利用する野鳥に影響を与えないように、配慮していきます。

② 里山風景区3の新設

これまで活用ゾーン内でしたが、整備内容が決まっていなかった、かがみ池の西側斜面を「里山風景区3」として整備することになりました。間伐、下草刈りなどを行い、里山らしい落葉樹主体の雑木林を再生させていきます。

③ アカマツ再生区周辺の整備内容変更

雑木林として整備する予定だった「雑木林3」を東西に分け、西側を隣接しているアカマツ再生区に統合しました。このエリアの一部は皆伐し、森にギャップを作る予定です。また、東側は継続して雑木林として整備します。この他、これまで、下草刈りや実生の確保、落ち葉掻きなどを実施してきた「アカマツ再生区2」を「里山風景区2」に統合することになりました。



▲教員研修



▲大学の実習受け入れ



▲ボイスカウト



▲子ども会

各団体の活動目的や年齢、人数に応じたプログラムをご提案します。まずは、お気軽にお問い合わせ下さい。



堺市は2008年に「堺市の保護上重要な野生生物－堺市レッドリスト」を公表しました。レッドリストというのは、絶滅種や絶滅のおそれのある種を危機状況のランクごとにリストアップしたものです。このリストによると、堺市域からこれまでに記録のある約4600種の野生生物のうち、55種（1.2%）が既に絶滅し、520種（11.3%）が保護すべき種とされています。



▲シルビアシジミ

私も選定に関わった昆虫類では、172種がリストに掲載され、そのうち12種が絶滅種とされました。これらのうち、ルイスハンミョウは河口や海岸の砂地で見られた昆虫です。堺市域ではこの甲虫のすめる自然の海岸線は、とうに失われてしまいました。残りの11種の絶滅種は、いわゆる里地里山の昆虫です。例えば、ベッコウトンボやタガメ、コガタノゲンゴロウなどは、ため池や水田、水路などからなる「稲作水系」を主な生息場所としていました。また、ギンイチモンジセセリやシルビアシジミは、農耕地や畦畔、河川敷などの明るい草地に生息していました。これらの絶滅昆虫は、全国的にも里地里山環境の変貌とともに絶滅が危惧されている種ばかりです。

絶滅種以外のレッドリスト掲載種も、やはり里地里山の種が大半を占めています。今回リストに掲載されたミヤマセセリやミドリヒョウモン、ヒラタクワガタ、カブトムシ、ヤマトタマムシ、ミンミンゼミなどは里山林の昆虫ですし、ジャノメチョウやカヤキリ、スズムシなどは農耕地周辺の草地の昆虫です。また、稲作水系の昆虫として、ベニイトトンボやハッチョウトンボ、ヘイケボタル、コオイムシ、タイコウチ、オオアメンボ、ミズスマシなど多くの種がリストにあがっています。

里地里山の自然は、長い人間との関わりの中で維持されてきた二次的なものですが、多種多様な野生生物に生息場所を提供してきました。しかし、化石燃料や化学肥料などの普及により里山林は不要になり、農業者の減少や減反政策などで農地の耕作放棄が進み、次々に市街化の波に

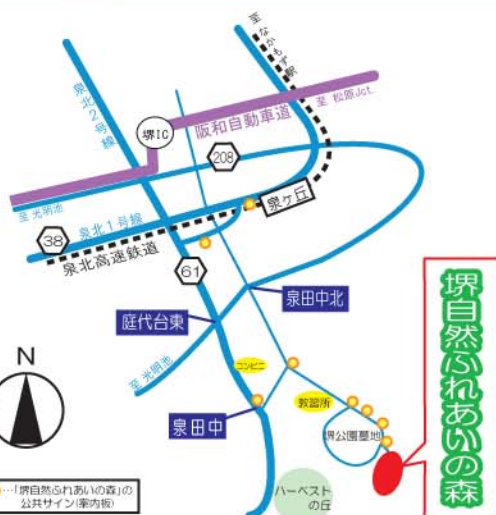


▲ベニイトトンボ

飲み込まれてきました。また、水田では圃場整備が進むなど、里地里山を生息場所とする野生生物は急激に衰退しています。

堺市域にも、かつては全域に田園の風景が広がり、多くの里地里山の生き物が生息していたと思われますが、現在、このような自然環境が広く残されているのは南部丘陵のみです。堺の生物多様性をこれ以上減少させないようにするためには、この地域の里地里山景観の保全が欠かせません。

交通案内



● 電車・バスでの来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側②番のりば(南海バス)
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km
※日曜・祝日は、堺公園墓地行き 直行便有り
「自然ふれあいの森前」下車 すぐ

● 車でのご来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5Km
公共サイン(案内板)を目印に お越しください。

●●●●● お問い合わせ・申込み先 ●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 OSS・EPRグループ(指定管理者)
※OSS・EPRグループは、大阪ガスコミュニティライフ株式会社・株式会社生態計画研究所の連合体です。